

目的 快適な衣服の材料、デザイン、着方などを追求する目的で、衣服間隙を大きく変化することのできるフレアーおよびギャザースカートを例とし、シルエットの相違にもとづく種々のスカートの顕熱的特性をサーマルマネキンにより検討した。

方法 スカートの種類としてタイト、フレアー（フレアー度 12° 、 38° 、 64° 、サーキュラー）およびギャザー（倍率 $2/3$ 、 1 、 $1\frac{1}{2}$ 、 2 ）の9種、スカート丈としてミニ、ノーマル、ミディ、ロングの4種、材質は綿ブロード、ポリエステルデシンおよびウールツイードの3種、これらを組み合わせて108通りのスカートを作製して供試試料とした。実験はスカートのみをサーマルマネキンに着用させ、立位および椅座位についてマネキンの全身にわたる14部位の表面温および気温を測定し、スカートの局所別熱抵抗およびクロー値を求めた。さらにスカート重量、スカート面積およびスカートの被覆率 f_d を求めた。

結果 一般にスカート丈の違いによる熱抵抗の差は大腿部、下腿部に顕著にあらわれるが、腹腰部ではそれ程顕著でなかった。また、フレアー度の違いは腹腰部、大腿部にあらわれ、立位より椅座位の方がフレアー度による差が大きくなる傾向があった。さらに、ギャザー倍率の違いは立位ではギャザー度の異なる程腹腰部の値が大きく、逆に大腿部で小さくなる傾向があった。しかし、スカートのクロー値はスカート丈、フレアー度（またはギャザー倍率）、材質因子の相互間に高度に有意な交互作用があり、個々の組み合わせによるそれぞれ特徴ある熱特性を示した。なお、クロー値はタイトスカートでは立位 \rightarrow 椅座位になるが、衣服間隙の大きいスカートでは椅座位 \rightarrow 立位になることが各スカート丈でいえるようである。